

令和4年度

平和への誓い

次世代へつなぐ思い

令和4年7月の大阪戦没者追悼式は、新型コロナウイルス感染拡大のため縮小開催となりました。式典当日に戦争経験者の体験談をご紹介する予定でしたが、叶わなかったため、この小冊子でご紹介いたします。

併せて、大阪府・大阪市・堺市が実施している戦没者等への援護事業等の一部を紹介させていただきます。

戦後77年が過ぎ、戦争を経験したご遺族の声に触れることは、貴重な機会となっています。今後も引き続き追悼式等の事業を通じて、その記憶を語り継ぎ、戦争の悲惨さ、平和の尊さを伝えてまいります。

令和5年3月

大阪府・大阪市・堺市

ほがらかに
生きていける
世の中に



赤井恵美子さん
(終戦当時19歳)

音もなく下りてきた飛行機、爆弾・・・

毎日乗っていた電車から、いつも見える白い家。ある朝、その家のあたりも焼け野原となり、家の前の防空壕から白い煙が出ていた。市電の線路だけが見える、それくらい焼けてしまっていた。その光景をみて、涙がこぼれました。

当時は、赤紙（召集令状）を持った兵隊さんのために、豆ごはんのおにぎり2つ、みかんの缶詰を包む仕事をしていました。

ある日、隣のおばさんと「今日は警報はないね」と話をしていたら、上空にB29が小さく見えた。しばらくして、空襲警報がでて、慌てて近くにあった鳥小屋に避難しました。飛行機が見えなくなってから、防空壕へ移動。1時間ほどたって、外に出たら、音もしないのに飛行機が下りてきて、田んぼの向こうにある一軒家に爆弾が落とされた。

夫を支えるために、行商へ

外地で病気になり帰ってきた夫は、当時一人暮らしでした。家が近かったのもあり、母に手伝うように言われ、お世話をしていましたが、その縁で、昭和20年5月5日に結婚しました。

結婚してからは、夫の薬代を稼ぐため、鶴橋で商品を仕入れて、行商をするようになりました。重たい荷物を背負い、階段を上がるのが大変でしたが、10年間この仕事を続けました。

夫が亡くなり、近くにデパートができてからは、仕入れた商品は売れなくなりました。

調理師免許をとり、近くの小学校に勤めるようになりました。

当時は、朝5時15分発の電車に乗り、船津橋（現在福島区）の中央市場で食材を仕入れ、勤めていた小学校へ自転車で運んでいました。

働きながら、遺族会の役員を83歳になるまで続けてきました。

今の世の中を見て思うのは、悪いことをする人が多い、生きにくいということ。ほがらかに生きられるような世の中にしてほしい。戦争のない、平和な日本を祈ってほしい。それが一番です。





南 政憲さん
(終戦当時10歳)

そりゃもちろん
戦争せんように。
それが第一

さみしかった学童疎開

小学3年生になったとき、枚岡(東大阪市)に学童疎開へ行った。学童疎開は1組30~40名で、3組ぐらいあったと記憶している。枚岡神社の近くのお寺の本堂で寝泊まりをし、生活を送っていた。疎開中は、親との面会は月1度だけ。親が電車に乗って会いに来なければいけないため、なかなか会えない人もいた。月に一度の面会が楽しみであった半面、面会が終われば親から離れないといけなかったため、それが一番つらかった。

昭和20年3月の大阪空襲のとき、お寺の本堂の窓から、大阪が真っ赤に焼けている景色が見えた。燃え盛るなか、大阪城がシルエットとして見えていた。先生から「見たらあかん」と止められた。

そのとき小学6年生は、卒業式で大阪に戻っていたため、空襲を受けてしまった。

空襲で実家が焼失し、母方の親戚が住んでいる奈良県吉野の黒滝村へ急に縁故疎開することとなった。吉野では、和歌山からB29が大阪へ向かい、爆弾を落とすところを2~3回見た。ピアノでこれがB29の音、これは艦載機の音ということを知った。

夜寝ているとき、「シューシュー」と爆弾を落としている音が聞こえた。

食べ物がなく苦しかった戦後

父は、昭和18年に召集され、昭和23年に大阪へ遺骨をもらいに行った。骨はなく、空箱が置いてあるだけだった。

一番つらかったのは、親がおらず、点々としていたため、食べ物が無い状況だったこと。しらみも大量にわいていた。戦争が終わってからの方がつらいことが多かったかもしれない。

空襲で焼けた様子は、大阪で開催された復興博覧会でようやく見ることができた。

今の人は平和でいいね。本当に戦争は嫌なことばかり。

ウクライナでは民間の方がいる市場が攻撃されている。巻き込まれたらあかん。国を守らな。家族も守らな。それは第一で考えなければならぬこと。戦争で苦しんでいるのは家族。

テレビのゲームで戦争とかもやっているけど、ゲームやからできること。実際には血を流してやるんだから…戦争はしないようにしなければならないね。



大阪戦没者追悼式

大阪府・大阪市・堺市共



1 開催の趣旨

先の大戦による大阪府内の戦争犠牲者は、12万7千余名の多きに及んでおり、これら犠牲者に対し、府民とともに心から追悼の誠を捧げるとともに、再び戦争の惨禍が繰り返されることのないよう、その教訓を次世代に語り継ぎ、恒久平和への誓いを新たにするため式典を行う。

2 開催日程

例年7月末～8月上旬頃

3 参列者（最大1,000名）

- ・府内戦没者遺族代表
- ・来賓
- ・府民

4 直近の開催状況

令和4年7月28日（木）
大阪国際交流センター大ホール
新型コロナウイルス感染拡大のため縮小開催
《参列者》
・遺族代表
・大阪府知事、大阪市長、堺市長



全国戦没者追悼式への参列

毎年8月15日、日本武道館で举行される政府主催の全国戦没者追悼式に大阪府代表遺族等が参列しています。



1 「なにわの塔」 建立の経緯

終戦20周年記念事業の一つとして太平洋戦争終焉の地、沖縄で戦没された大阪府関係者を追悼するため、昭和40年4月26日に沖縄の最南端摩文仁（沖縄県営平和祈念公園内）に慰霊塔「なにわの塔」が建立されました。

2 慰霊追悼式について

建立されて以来、毎年、大阪府遺族連合会及び大阪市遺族会が、なにわの塔で追悼式を行っており、令和4年度は令和5年2月2日（木）に開催されました。

大阪府及び大阪市職員も毎年参列させていただいております。

碑文



「太平洋戦争最後の激戦地たるこの沖縄に勇戦力闘して、悲壮の戦死を遂げられた大阪府出身の英霊2,400有余柱。ねがわくは奇蹟的復興を遂げえた郷土の現状を見そなわせ。これひとえに最期まで祈り続けられた諸霊が在天御加護の賜にはかならない。思えば個人の生命は短く、民族の歴史は永い。終戦20年に当り最も犠牲の多かりし摩文仁の丘に「なにわの塔」を建立して、恭しく諸霊の御遺徳を顕彰し、あわせて人類恒久の平和を祈る。御証悟安からんことを。」

※昭和44年には、建立5周年にあたって南方諸地域戦没者を新たに合祀しました。

平和祈念公園

平和祈念公園は沖縄本島南部の「沖縄戦終焉の地」糸満市摩文仁の丘陵を南に望み、南東側に険しく美しい海岸線を眺望できる台地にあります。公園内には沖縄戦の写真や遺品などを展示した平和祈念資料館、沖縄戦で亡くなられたすべての人々の氏名を刻んだ「平和の礎」、戦没者の鎮魂と永遠の平和を祈る「平和祈念像」、そして摩文仁の丘の上には国立沖縄戦没者墓苑や府県、団体の慰霊塔が50基建立されています。

沖縄「なにわの塔」慰霊追悼式（令和5年2月2日開催） に参加されたご遺族のご感想

35年前（46歳）に初めて母親と参加しました。その後、父親が戦死した東部ニューギニアに56歳、68歳の時に行きましたが、戦後何十年もたってもいまだに・・・まだ・・・。

私達、遺族の悲しみは・・・辛く、二度と私たちのような悲しみを味わうことなく、平和に暮らせることを願います。

われわれ遺族が頑張らないと遺族会がなくなってしまうです。

父親の顔は写真で見ているだけで、父親としての実感はありませんし、父親に抱かれたこともありません。母親のお腹の中にいて、戦地から名前を付けてきたと聞いています。

（戦没者の子）

遺児である徒姉妹に声をかけて頂いて参加させて頂きました。思わぬ追悼式に参列させて頂いて感激致しました。

徒姉妹の父君・叔父の御霊に追悼できた経験は何よりの喜びになりました。ありがとうございました。

（戦没者の姪）

奉安所

不自由な体でこうして参加させて頂くことができ、皆さまのご親切な対応に感謝いたしております。

また、今後ともよろしくお願いたします。

（戦没者の子）



今後、次世代に語り継ぐことが大切です。

母と昭和48年に父が戦死しましたフィリピンに行き、その後、沖縄にも行くことができました。

（戦没者の子）

沖縄および南方諸地域戦没者
の^{れいじぼ}霊簿が納められています。

日本遺族会、大阪府遺族連合会の継続に当たり、色々とお世話頂きありがとうございます。

戦後78年、もうそろそろ・・・という意見もお聞き致しますが、我々遺児と致しましては、まだまだ後世に伝えていくためにも、よろしくお願い致します。

（戦没者の子）

追悼式に参列して戦争は絶対にしてはいけない事を次世代に伝えていかなければと強く思いました。

皆が平和に暮らせている日本にも、こんなにむごい戦いがあったこと、戦没者の皆さまのおかげで今の平和があることを、もっともっと知ってほしいです。

不穏な世界情勢にあって、かつての戦争により両親、妻、子、兄弟を襲った不幸。取りかえす事の出来ない人生。

決して戦争はしないと誓ったはずなのに、また、きなくさい臭いが。

父を知らない（戦死、遺骨は帰らず）子の思いを。

（戦没者の子）

「なにわの塔」がある 摩文仁の丘から見える海岸





追悼式典の様

沖縄および南方諸地域で亡くなられた3万5千余りの大阪出身の戦没者の方に、あらためて今の平和を享受できる喜びに感謝し、それを伝える事ができた追悼式であったと思います。

遺児の高齢化が進む中、年々開催へのハードルが高くなっていきますが、できる限り孫世代の私たちが引き継いでいかなければならないと感じました。

(戦没者の孫)

今回初めてお誘いをいただき、母娘で参加させていただきました。沖縄のなにわの塔に参拝させていただきましたことを感謝しております。

私の父はフィリピンルソン島で昭和20年1月25日に戦死、今年78年になります。昭和20年7月生まれの私は父を知りませんが、今回、娘と慰霊式に参加できたことは忘れられない貴重な生涯の思い出になりました。

本当にありがとうございました。
(戦没者の子)



私の祖父は戦争で亡くなり、母は父の顔さえ知らない。祖母は大変な思いで子どもを育ててきたんだなあいつも思っていました。

今、平凡な生活を送っている私たちは、戦争で亡くなった多くの方々のお陰で今があると思うと、一日一日普通に生活できることを感謝です。



大阪府遺族連合会からの紹介で参加し、今回で5回目ですが、遺族会会員の高齢化で参加者が年々少なくなり残念です。

戦死者の英霊は「オレはここにいる。毎日とはいわぬ。せめて、ひと月に一度はオレがここに眠っていることを思い出してくれ」と野や山、海や河から呼んでいることだろう。

遺族が大阪府のご尽力で沖縄慰霊祭に参加でき感謝しております。今後ともよろしくご支援お願い致します。

(戦没者の子)

初めて参加させて頂きました。

貴重な体験をさせて頂き感謝いたします。ありがとうございました。

亡き母といつも泣いていました。
(戦没者の子)

戦争の体験、記憶を次世代へつなぐ



再び戦争の惨禍が繰り返されることのないように、その教訓を次世代に語り継ぎ恒久平和への誓いを新たにするため、追悼式の開催や若年層に対しての取組みをすすめています。

【取組内容】

- ・追悼式での中高生による「平和への誓い」（平成27年度～）
- ・戦争経験者の体験談紹介（令和4年度～）

令和3年度 平和への誓い



私の学校では、夏に長崎への修学旅行へ行く予定です。それに向けて平和学習を行いました。そして、その学習を通して、改めて戦争の恐ろしさ、悲惨さを感じました。特に原子爆弾が落とされ、被爆した人やその子供たちに及ぶ放射線による後遺症に苦しんでいる人がいると知り、とても悲しくなりました。

戦後76年が経った今、日本は平和です。しかし、世界に目を向けると内乱などまだ起こっている国があり、今も戦いにより大勢の人が亡くなっています。私はそのような内乱がなくなり、日本だけではなく、全ての国が平和だといえるような世界になってほしいと思います。

大阪府内 中学3年生



私の祖母は戦争経験者で、電車に乗った際に見た大阪城一帯が焼け野原だった光景を未だ鮮明に覚えているそうです。

学校でも平和学習を行っており、動画内の「戦争に勝者はいない。」という言葉がとても心に残っています。決着はついたとしても傷が残ったのは全員であり、心身共に無傷でいい思いをした人は一人もいません。

そんな戦争が二度と起こらず平和な世界を作れるよう、戦争で失われた命が無駄にならないよう、しっかり学び伝えていきます。

大阪府内 中学3年生

平和への誓いとは

府内在住の小学校高学年から高校生で、戦没者等のご遺族やご親族の方から戦争についての経験や話を聞き、その感想や平和への誓いを作文にし、追悼式で発表していただいております

平和への願い

令和4年11月、堺市立五箇荘小学校のみなさまから、堺市へ平和への願いが書かれたメッセージと一緒に、約2,000羽の折り鶴を寄贈していただきました。現在、寄贈いただいた折り鶴は、堺市の大仙公園内の礼拝堂に飾られています。

【平和への願い】

私たちが折った折りづるで1人でも多くの人を救うことができたらいいなと思いました。折りづるは世界平和のしょうちょうなので世界平和になってほしいです。

堺市立五箇荘小学校 6年生

平和塔



礼拝堂



礼拝堂とは

堺市の大仙公園内にそびえ立つ「平和塔」の前に直径7メートルの円筒形のお堂があります。この施設は、昭和46年7月に堺市と当時の堺市遺族によって平和塔とともに建てられました。

「過ぐる大戦によって死没された犠牲者の霊を慰めると共に全市民が更に平和を前向きの姿勢で祈念する」という思いが込められています。

毎年8月15日、戦没者・戦災物故者への追悼の意を込め、礼拝堂を開放し、献花台を設けています。

平和を願うメッセージ

伝えたい 戦争のおそろしさ 平和のすばらしさ
守りたい 子どもたちの未来 日々の幸せ みんなの笑顔
考えたい 今までのこと 戦争のこと
これからのこと 日本のこと、世界のこと、地球のこと

(平成27年度 沖縄「なにわの塔」慰霊追悼式・世代間交流平和学習事業参加児童・生徒一同)

平成27年4月(戦後70年)に実施した沖縄「なにわの塔」慰霊追悼式・世代間交流平和学習事業に参加した児童生徒の皆さんが、平成27年8月開催の「戦後70年平和祈念・大阪戦没者追悼式」で披露するため共同作成したものです。